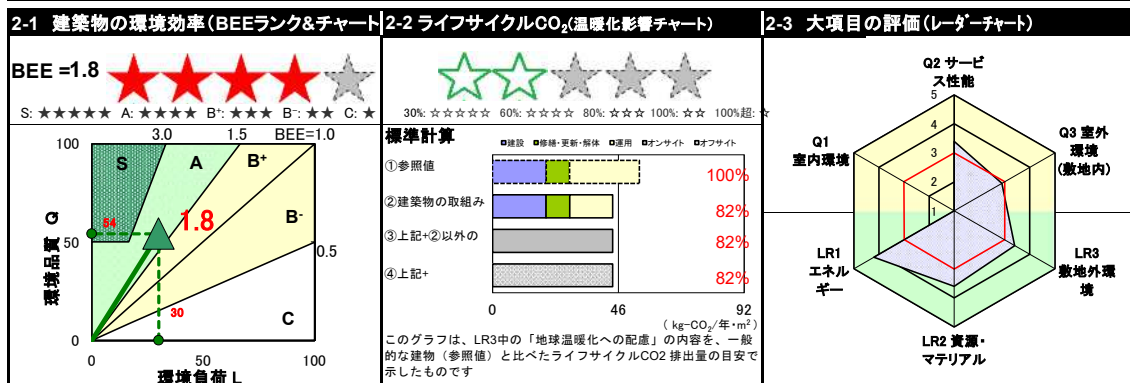
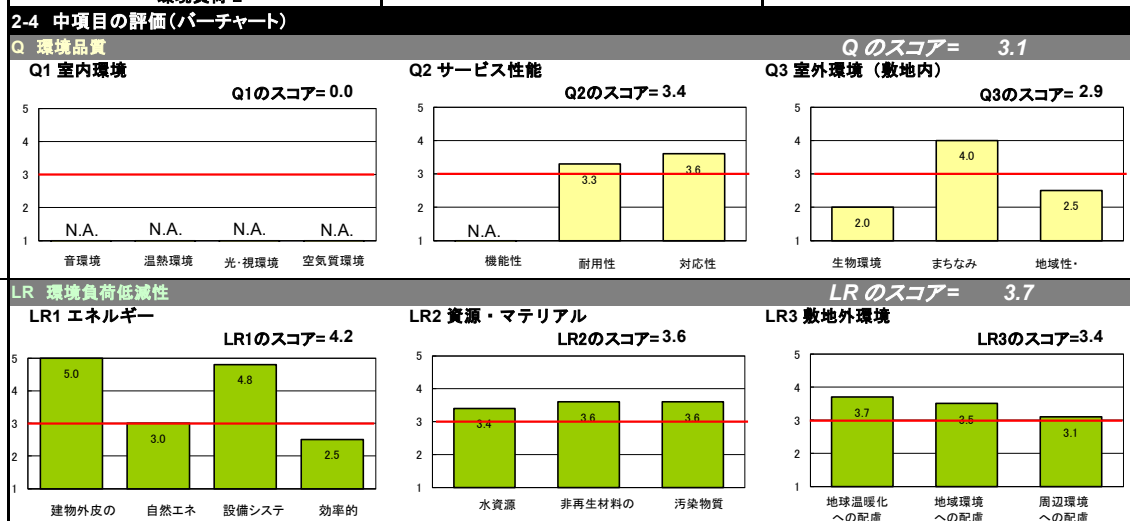


CASBEE[®]あいち

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

評価結果

1-1 建物概要	1-2 外観
建物名称 〈仮称〉シモハナ物流棟—宮木曾川センター—	階数 地上4階
建設地 愛知県一宮市木曾川町黒田九ノ通り323番 外29番	構造 S造
用途地域 法第22条区域	平均居住人員 150 人
気候区分 6地域	年間使用時間 1,960 時間/年
建物用途 工場	評価の段階 実施設計段階評価
竣工時期 2028年9月 予定	評価の実施日 2026年7月29日
敷地面積 16,340 m ²	作成者 有限会社福光設計事務所 福光 俊明
延床面積 8,785 m ²	確認日 2026年7月30日
延床面積 18,785 m ²	確認者 有限会社福光設計事務所 山下 裕之



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.7	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		107.0 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.4	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3.1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
〔仮称〕シモハナ物流備一宮木曾川センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 評価点	共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.43				3.4
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				0.5	3.3	0.52	-	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.2	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.7	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	5.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		工場用途: 5.9m、事務用途: 3.95m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.06	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	植栽等により良好な景観を形成している	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.59	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.62	3.0	4.8	0.50	-	-	-	4.8
4 効率的運用			0.2	2.5	0.20	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		省水型便器、節水コマを過半以上採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生クラッシュラン(路盤)/ビニル床シート(休憩室床)	3.0	4.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	容易に分別可能なLGS、再利用可能なユニット部材のOAフロアを採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		塗床材にPRTR対象物質を含有しない建材を採用	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		スタイロフォーム(押出法ポリスチレンフォーム)ODP=0、GWP=3	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率82%	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		敷地内から大気汚染物質を全く発生しない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	駐輪・駐車場、荷捌き用車両用スペース、複数の出入り口を確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策がイドラインの一部、広告物照明の扱いの過半を満たす	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)シモハナ物流センター 宮木曾川センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.4
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:107%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)シモハナ物流棟―宮木曾川センター

計画上の配慮事項	
総合	・再生利用が可能な資材を採用し環境に配慮
Q1 室内環境	・工場用途の為対象外とする
Q2 サービス性能	・階高や空間の形状にゆとりを持たせ対応性・更新性に配慮
Q3 室外環境(敷地内)	・植栽を多く計画し敷地内歩行者空間等の暑熱環境の向上に配慮
LR1 エネルギー	・断熱性の高い材の採用と高効率設備の導入により、環境負荷低減に配慮
LR2 資源・マテリアル	・建物の節水性に配慮 ・躯体材料以外にリサイクル材を採用し、非再生性資源の使用量削減に努めた
LR3 敷地外環境	・消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出率低減に配慮 ・充実した駐車駐輪施設の計画に加え、敷地周辺への交通負荷抑制に努めた
その他	特になし